

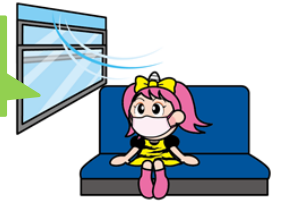
岡山県感染症週報 2022年第29週 (7月18日～7月24日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2022年 第29週 (7/18～7/24) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い・換気!
熱中症にも注意!



©岡山県「うらっち」

- 第27週 5類感染症 梅毒 2名 (20代 男 1名・女 1名)
- 第28週 2類感染症 結核 2名 (20代 女 1名、60代 女 1名)
- 5類感染症 梅毒 4名 (20代 男 1名・女 2名、60代 男 1名)
- 第29週 2類感染症 結核 17名 (20代 男 11名・女 4名、80代 女 1名、90代 男 1名)
- 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O111:中学生 女)
- 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (80代 女)
- 梅毒 2名 (20代 男 1名・女 1名)
- 新型コロナウイルス感染症 9,852名

新型インフル
エンザ等感染症

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
1,691	1,725	1,504	1,451	1,369	893	516	367	227	107	2

【第30週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O103:30代 男) の発生がありました。
- 日本紅斑熱 1名 (80代 女) の発生がありました。
- 新型コロナウイルス感染症 5,117名の発生がありました (7月25日～27日)。

ワクチン接種も
大切!



©岡山県「ももっち」

1. [新型コロナウイルス感染症](#)は、2022年第29週に9,852名の報告があり (第28週は4,881名)、県内での2020年からの累計報告数は122,248名となっています。詳しくは「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
2. 第29週までに[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) 3名、[日本紅斑熱](#) 3名、[つつが虫病](#) 1名の報告がありました。これらは、病原体を保有するマダニまたはツツガムシに刺咬されることで感染します。また、SFTSに関してはイヌやネコからの感染も報告されています。詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2022年第29週に1名の報告があり、2022年の累計報告数は27名となりました (2021年の同時期:23名)。岡山県は7月19日に「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、2022年第29週に2名の報告があり、2022年の累計報告数は98名となりました (2021年の同時期:70名)。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡		細菌性髄膜炎	➡	★
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移: ↑: 大幅な増加 ➡: 増加 ➡: ほぼ増減なし ➡: 減少 ↓: 大幅な減少
 大幅: 前週比100%以上の増減 増加・減少: 前週比10～100%未満の増減

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません)
 空白: 発生なし ★: わずか ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

今週の注目感染症①

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、7月26日までで全人口の80.9%が2回、62.7%が3回のワクチン接種を完了しています。また、4回目の追加予防接種が進められています。

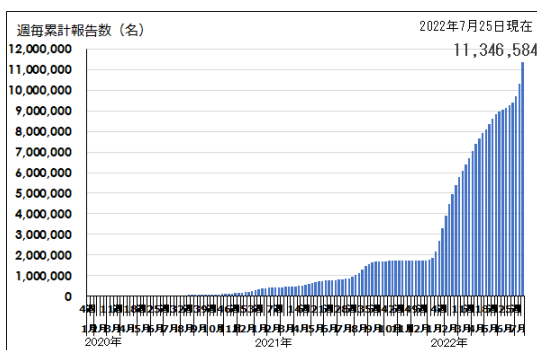
●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第1.1版（2022年6月17日発行）](#)

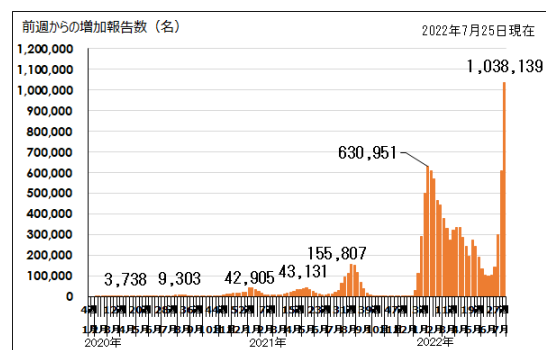
●発生状況

・全国

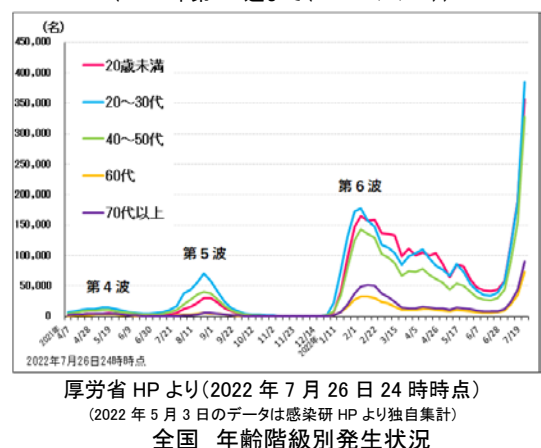
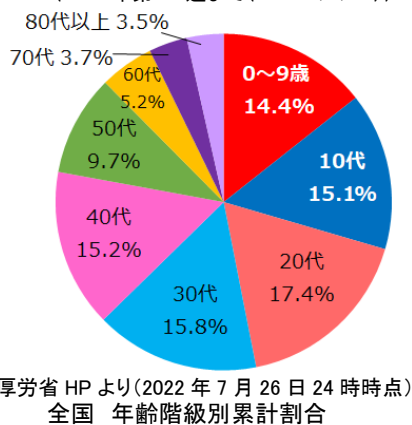
2022年7月27日0時現在まで、国内感染者は累計で11,680,821名、国内死亡者は32,048名、入院治療等を要する者は1,291,006名（うち重症者311名）となっています（厚生労働省ホームページより）。全国の新規感染者数は、3週連続で前週比ほぼ倍増と、全ての年代で急速な増加が継続しています。新規感染者数の増加に伴い、療養者数の増加も継続しています。重症者数や死亡者数も増加傾向であり、さらなる増加が懸念されます。ワクチンや感染により獲得された免疫の減弱、感染者数が増加しやすく、免疫逃避が懸念されるオミクロン株のBA.5系統への置き換わり等が増加要因として考えられています。気温上昇によって屋内での活動が増える時期ですが、冷房を優先するため、換気が不十分となる場合があります。また、夏休みに入り、接触機会の増加等が予想されます。引き続き感染防止策および体調管理の徹底に留意しましょう。

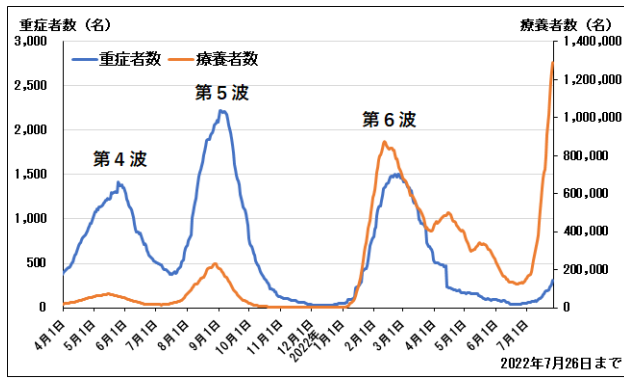


全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より (2022年 第29週まで(～2022/7/24))

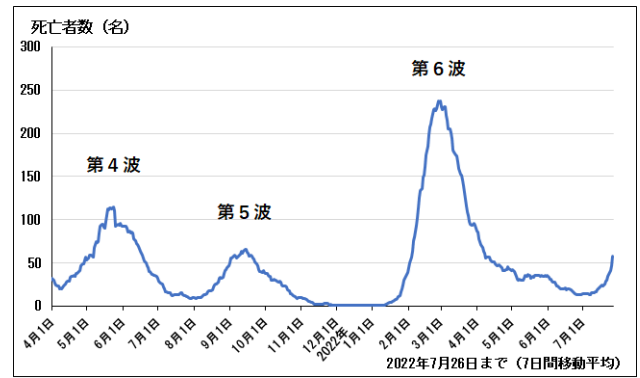


全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より (2022年 第29週まで(～2022/7/24))





全国 重症者数・療養者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2022年7月26日まで))



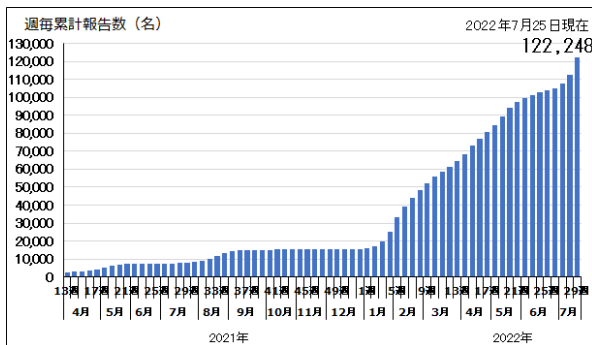
全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年7月26日まで))

・岡山県(最新情報)

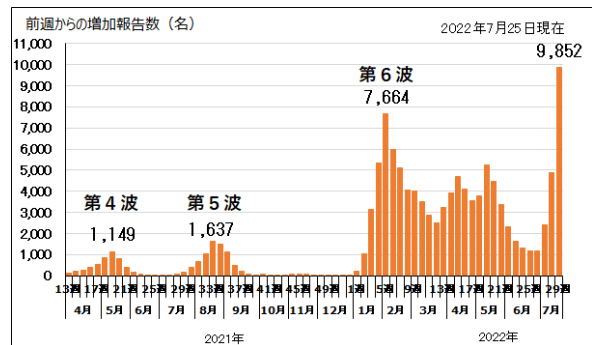
2022年7月28日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で127,365名、死亡者は256名(7月21日～27日までの1週間で3名増加)となっています。高齢者施設・学校・医療機関・保育施設などでクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、全国と同様に、3週連続で前週比ほぼ倍増と、全ての年代で急速な増加が継続しています。ワクチン接種とともに、基本的な感染予防策(3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など)の徹底に留意し、体調が悪いときは外出、帰省、旅行を控え、速やかに医療機関を受診しましょう。

2022年 第30週 速報 5,117名 年齢階級別発生状況一覧表

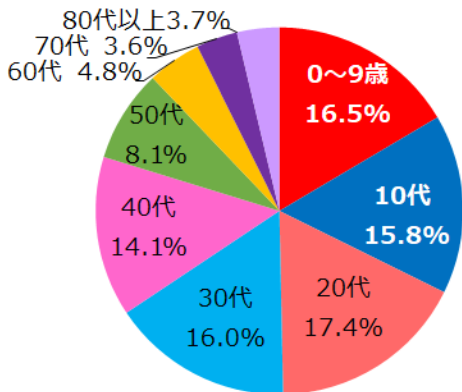
0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
1012	839	663	751	761	459	264	196	123	49



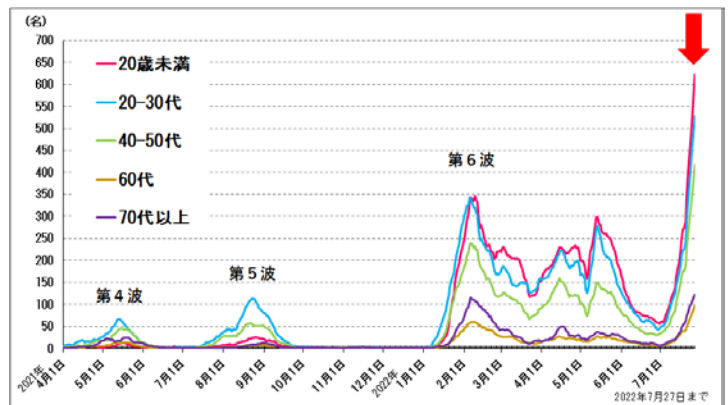
岡山県 週毎累計感染報告数 (第29週まで)



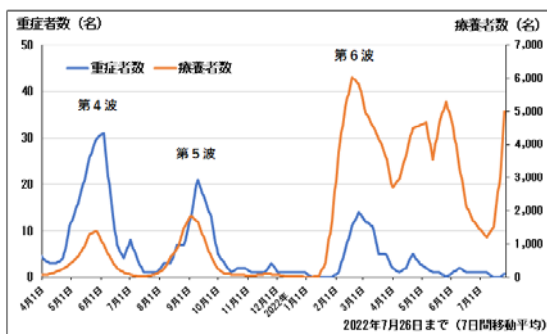
岡山県 週毎増加感染報告数 (第29週まで)



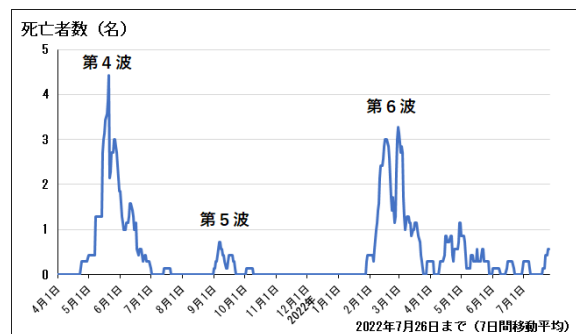
岡山県 年齢階級別累計割合(7月27日まで)



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、7月27日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年7月26日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年7月26日まで))

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしてもらいましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症に関するコールセンター](#)

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます（岡山県健康推進課）](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます！

岡山県の2019年4月～2022年4月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、31.9%(3月までは31.5%)と未だに低い状況です！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

今週の注目感染症②

★ダニ媒介感染症

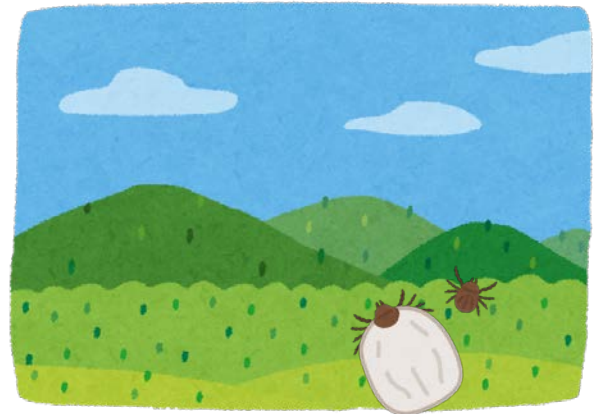
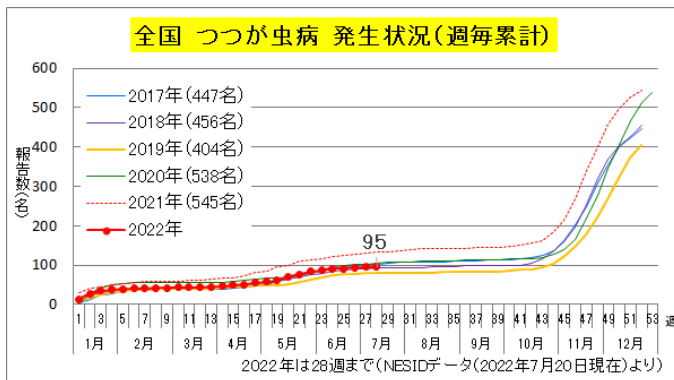
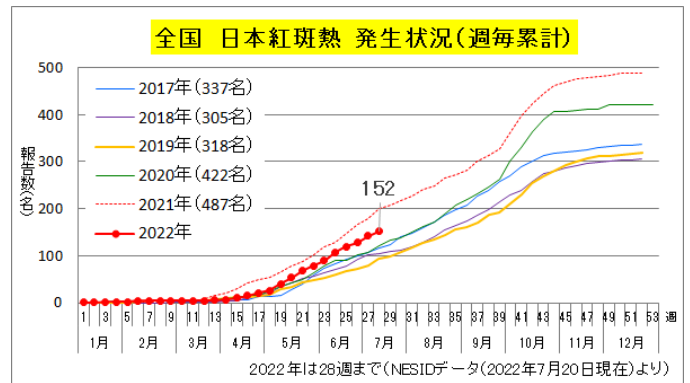
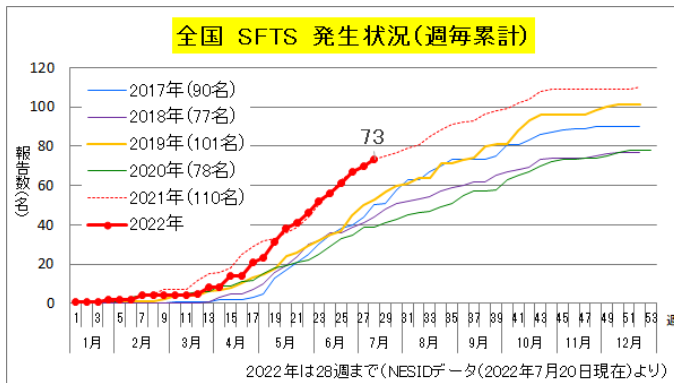
野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています(マダニは、食品に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」などの家庭内に生息するダニとは種類が違います)。これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)**・**日本紅斑熱**・**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。これらの感染症は、例年3月から11月にかけて多く報告されています。

※ 診断・治療法・予防法など詳細は『[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)](#)』に注意しましょう、『[日本紅斑熱](#)』に注意しましょう、『[つつが虫病](#)』に注意しましょう(すべて岡山県感染症情報センターホームページ)をご覧ください。

<全国および岡山県での発生状況について>

●全国

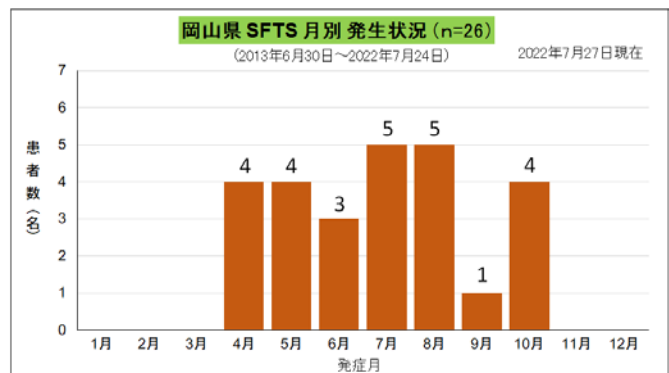
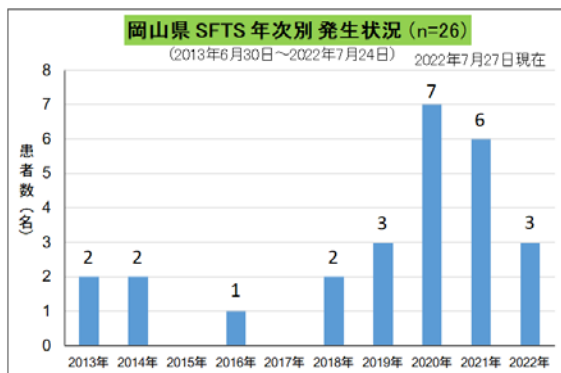
2022年第28週までの報告数をみると、SFTSは集計開始以降で最多であった2021年と同程度で推移しています。日本紅斑熱、つつが虫病は平年と同程度で推移しています。



●岡山県

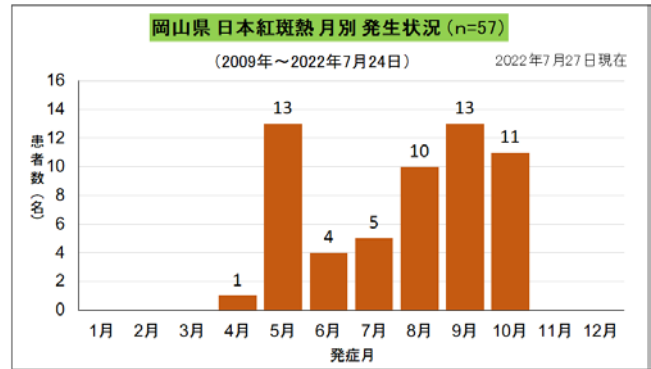
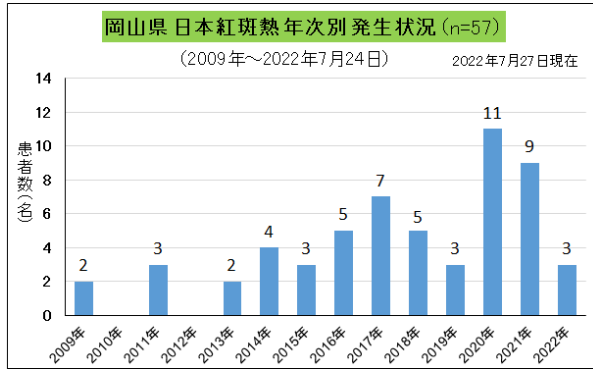
☆SFTS

2022年は第29週までで**3名**の報告がありました。なお、2020年には**7名**が報告され、初発例が報告された2013年以降で1年間の報告数が最多となり、また、2021年にはこれに次ぐ**6名**が報告されました。2013年からの月別発生状況では、春から秋にかけて患者が発生する傾向があります。



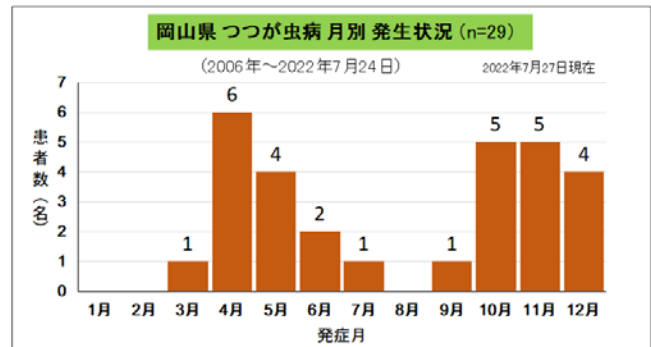
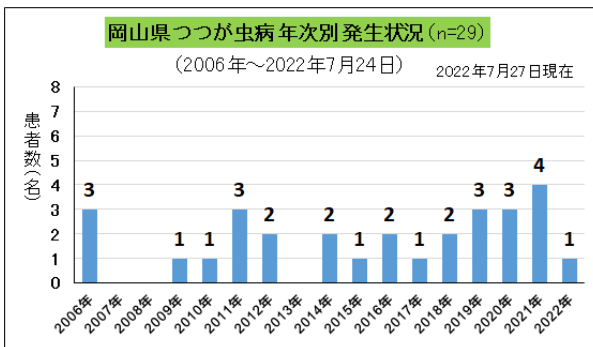
☆日本紅斑熱

2022年は第29週までで**3名**の報告がありました。なお、2020年には**11名**が報告され、初発例が報告された2009年以降で1年間の報告数が最多となり、また、2021年にはこれに次ぐ**9名**が報告されました。2009年からの月別発生状況では、5月と、8月から10月にかけて、患者数が増加する傾向があります。



☆つつが虫病

2022年は第29週までで**1名**の報告がありました。なお、2021年には**4名**が報告され、2006年の集計開始以降で1年間の報告数が最多となりました。2006年からの月別発生状況では、4月をピークとする春と10月から12月の秋冬にかけて患者が多く発生する傾向があります。



ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含む)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。



0157の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

保健所別報告患者数 2022年 29週(定点把握)

(2022/07/18~2022/07/24)

2022年7月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	1	0.05	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	44	0.81	12	0.86	27	2.45	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.19	3	0.21	4	0.36	1	0.10	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
感染性胃腸炎	230	4.26	66	4.71	53	4.82	41	4.10	23	3.29	12	3.00	-	-	35	5.83
水痘	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	16	0.30	9	0.64	2	0.18	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	8	0.57	2	0.18	1	0.10	5	0.71	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	22	0.41	10	0.71	2	0.18	2	0.20	-	-	8	2.00	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2022年 29週(発生レベル設定疾患)

(2022/07/18~2022/07/24)

2022年7月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	1	0.05	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.19	3	0.21	4	0.36	1	0.10	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
感染性胃腸炎	230	4.26	66	4.71	53	4.82	41	4.10	23	3.29	12	3.00	-	-	35	5.83
水痘	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	16	0.30	9	0.64	2	0.18	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	22	0.41	10	0.71	2	0.18	2	0.20	-	-	8	2.00	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2022年 第29週 2022/07/18～2022/07/24)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	44	8	5	17	4	5	3	2	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	8	-	-	2	-	4	-	1	-	-	-	1	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	-	1	-	-	2	-	1	1	1	-	1	-	2	
感染性胃腸炎	230	2	18	45	30	23	18	23	11	8	5	9	16	-	22
水痘	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
手足口病	16	-	5	6	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
伝染性紅斑	3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	-	2	10	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	22	1	1	5	10	2	1	1	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2022 年 29 週

分類	疾病名	2022			疾病名	2021			疾病名	2022			2021
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	17	146	250	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	27	82	
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	6	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4	
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	3	9	日本脳炎	-	-	-	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	19	57	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	6	14	ウイルス性肝炎	-	1	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	11	32
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	1	急性脳炎	-	5	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-	
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	4	後天性免疫不全症候群	-	3	13	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	12	17	水痘(入院例に限る。)	-	2	9	先天性風しん症候群	-	-	1	
梅毒		2	98	160	播種性クリプトコックス症	-	3	1	破傷風	-	1	1	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	-	10	15	
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	
※	新型コロナウイルス感染症	9,852	106,688	14,120		-	-	-		-	-	-	

※新型インフルエンザ等感染症

